

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成20年6月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1175100724
法人名	特定非営利活動法人 暮らしネット・えん
事業所名	グループホームえん
所在地	〒352-0033 埼玉県新座市石神2-1-4 (電話) 048-480-4950

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年6月24日

【情報提供票より】(平成20年6月8日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算 8.4人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造一部RC造り 地上2階地下1階建ての1階～2階部分
------	--------------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	30,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (480,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり1,300円				

### (4) 利用者の概要(平成20年6月8日現)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2		1 名	
要介護3	3 名	要介護4		3 名	
要介護5	0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 83.6 歳	最低	61 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	堀ノ内クリニック
---------	----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、隣に緑地帯があり、緑豊かな自然に囲まれた環境の中にある。ホームの周辺には、地主さんの協力もあり自由に散歩できる遊歩道もある。鍵を全くかけないホームは、経験のある職員がいること、近隣の住民や交通指導員への理解を呼びかけたからこそ、実現している。利用者の殆んどが、併設された訪問介護、居宅支援事業所、通所介護や法人主体の認知症家族会から、利用者と家族が共に信頼関係や馴染みの関係を築いてからの入居となっている。また、法人の認知症の方への理解や思いから、地域での交流や行政への働きかけを様々な形で行っている。ホーム単独では行えない地域ボランティアの受け入れ、認知症高齢者の家族会、地元新座市のグループホーム連絡協議会など、多種多様に主体的に活動をしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>理念に関して、ホームの雰囲気や大切にしたい掲示方法については、額に入れて玄関に掲示したが、現在ははずされていた。介護計画については、職員はホーム全体での取り組みを理解しており、ミーティングを通して職員の意見を反映し、家族への説明と同意は行われている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員が個々に自己評価に取り組み、その意見を管理者がまとめた上で、その結果を職員に返し、振り返りを行っている。自己評価の内容からは、職員全体が、現状に甘んじることなく、更なるサービスを追求する姿勢が伺われる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2か月に1回行われ、市の職員、民生委員、家族の代表が参加している。会議では、ホームの状況に対する説明や報告が主な内容となっている。法人としては行政や地域の方への働きかけを行い、利用者及び地域の認知症高齢者の家族への支援を主体的に行っている。今後はホームで運営推進会議の内容を深め、サービス向上につなげる方法を検討している。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>法人として訪問介護、認知症高齢者の家族会の主催、通所介護などから、職員、家族がより良い信頼関係の下に入居されている方が殆んどである。職員の誰もが家族への連絡が行える体制を築いている。要望についても家族が気軽に話せるようにしているが、今後幅広く、家族の意見を吸い上げる方法として、家族アンケートの実施を検討している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の方のボランティア活動として、庭の手入れや、食事、ピアノなど、様々な形で受け入れを行うとともに、行事などへの参加の呼びかけや気軽に参加できる環境づくりを行っている。ホームの何処にも鍵をかけない体制の実施には、地域の方々の協力が背景にある。新しい利用者が入った場合には、地域の交通指導員や地域住民の方に、引越しの挨拶のように顔を知っていただき、無断で外に出られたときの協力を呼びかけ、実際に協力が得られている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員ミーティングで、職員が話し合って独自の理念を作成している。家族や友人、大切な人としてのふれあい、人として見つめていく中でお互いに理解し信頼し合える関係、一人ひとりのペースを大切に心地よく過ごせる環境、地域社会との関わりの継続など、中身の濃い理念が作り上げられている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケアで迷ったときに理念に戻って職員で考えを深めたり、法人の代表者との会話などから、職員は意識しながら理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	庭の手入れや、食事、ピアノなど、様々な形で地域の方のボランティアを受け入れている。また、行事などへの参加の呼びかけや気軽に参加できる環境づくりを行っている。新しい利用者には、地域住民の方に顔を知っていただくよう、交通指導員など外に出られたときの協力を呼びかけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善項目については、内容を理解し職員全体で取り組んでいる。自己評価については、全職員が個々に行い、その意見を管理者がまとめ、その結果を職員に返した上で振り返りを行っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、民生委員、家族の代表等が参加し2か月に1回開催している。会議内容は、主にホームの状況に対する説明や報告となっている。今後、運営推進会議の内容を深め、ホームのサービス向上や運営への反映につなげることを検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、窓口で顔見知りの関係を築いている。法人としても、グループホーム連絡協議会などを主体的に進めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の健康状態や日々の様子については、職員が面会の際に家族に伝え、面会が少ない家族には電話連絡している。買い物等の利用者の小遣いの管理については、毎月請求書と共に、使用した項目のレシートと出納帳を郵送し報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	併設の事業所や活動を通しての入居が主であり、職員、家族がより良い信頼関係を築き、職員の誰もが家族への連絡が行える体制である。細かい要望については気軽に話ができる関係を築いている。また、家族アンケートの実施を検討している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での職員の異動は時々あるが、離職なども最近では少ない。利用者への配慮として、長く勤めている職員が落ち着いて行動することで、利用者の不安やダメージを避けるように対応している。また、職員同士も気軽に相談し合える環境を築いている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人関係のつながりで、2か月に1回近隣の東京都内のグループホーム4事業と事例検討会を行い、職員は交代で参加している。法人の訪問介護事業所や看護師と連携をとり、移乗介助や医療面での細かい技術や知識における内部研修を定期的に行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人が主体的に働きかけ、市内のグループホーム連絡協議会や定期的な研修会などを開催しており、同業者間で交流する機会をもっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	併設の訪問介護、通所介護、法人主体の認知症高齢者の家族会を通して入居に至っている。ほとんどの利用者及び家族が、職員と馴染みの関係、信頼関係を築いて入居している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	職員は利用者のそれまでの生活歴などを、ホームの生活に反映できるように努めている。利用者の様々な状態を総合して、「その人の今に合わせて」配慮しながら分かち合い、共に学び支えあう関係を築いている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	入居時に何枚ものアセスメントで情報を増やししながら、把握に努めている。近隣の方が入居されていることもあり、馴染みの店、友人とのふれあい、宗教的な習慣も、それまでのつながりを大事にしながら協力を呼びかけ、利用者のそれまで生活してきた関係や習慣を継続できる支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	月2回の職員ミーティングで、利用者へのケア方法や対応について検討し、それを基に介護計画を立案している。立案された介護計画は、家族に説明し同意を得ている。今後、計画担当者が立案した計画に対しても、介護計画としての意識が高まるよう職員の意見が反映していく事を検討している。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	利用者へのケアについて、月2回の職員ミーティングで検討されているが、利用者の状態の変化や状況に応じたタイムリーな介護計画へ、文書として反映されていない。		職員間でのミーティングは十分に時間を取って検討されているため、今後ミーティングでの検討内容が書式に残り、介護計画への文書としての反映が行われていくことを期待したい。また、設定期間に応じた定期的な見直しも望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の通所介護の送迎車を利用したドライブや、利用者個人の生活習慣を継続するための定期的な外出支援をしている。また、同一法人との合同で習字を楽しんだり、入居に当たっても馴染みの関係、信頼関係の構築など、法人及び併設事業所の機能を十分に利用し柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居に当たっては、それまでのかかりつけ医に継続して受診でき、適切な医療が受けられるように、家族と相談しながら対応している。かかりつけ医への定期的な受診は、家族と利用者との関係性を重視して家族に依頼しているが、急な受診の場合はホームで対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	常時医療が必要になった場合は、ホームでの対応が困難な事を入居時に説明し、納得の上での入居となっている。利用者の状態や意思を尊重し、状況に応じて家族と話し合い、相談し、協力クリニックの医師、ホームの看護師との連携の下で対応している。クリニックの医師、看護師とは、夜間であっても連絡や対応ができる体制となっている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個別記録ファイルは鍵付き戸棚に保管し、日常の記録類は所定の位置で管理している。居室がわからない利用者への配慮から表札をつける場合もあるが、利用者の居室には特別な表札は無く、プライバシーに配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴スペースを通所介護と共同で利用しているが、利用者の希望に対しては、柔軟に対応している。居室での食事や入浴をしたい場合は、利用者の意向を聞きながら、一人ひとりのペースに合わせ希望にそった支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、利用者と職員と一緒に食事をしている。食事の一連の作業においても、食材を切る、食器を運ぶなど利用者の状況に合わせて一緒に行っている。台所のスペースは開放的で、流しも2つあるため、利用者が自由に出入りできるようになっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間など職員の都合に合わせて入浴を行うことはなく、希望があれば、夜間の入浴支援も行なえる。入浴を好まない利用者に対しても、タイミングを合わせる努力を行っている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	近隣の方の入居が多いため、それまでの生活習慣や友人、馴染みの店との交流が途切れないように働きかけながら、習慣や有する力を役割や楽しみごと等に活かせるように支援している。生活歴、習慣等の情報が少ない利用者に対しては、今後情報を入手し、活かしていける取り組みを検討している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	法人併設の通所介護の送迎車でのドライブ、緑地公園への散歩、馴染みの店への出入りなどを支援している。また、法人の事業所や併設事業所の職員との連携で、外出が自由にできる体制を作っている。ホーム前が交通量の多い道路のため、職員が後から付いて支援する場合もある。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム全体で鍵をかけない支援を行っている。利用者家族にも、法人の方針を伝え、理解と納得を得ている。近隣住民や交通指導員に利用者を知ってもらう取り組み、職員が利用者の様子や所在を気にかける体制作り、法人の事業所や併設事業所の職員との連携が図られ、鍵をかけないケアの実現につながっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は、消防署の指導の下に行い、計画書も作成されている。階段やホームの外へのアクセスが多いため、実際の訓練からの課題もあり、実際的なマニュアル作成を検討している。		近隣の住民との合同避難訓練や避難場所としてのホームの利用など、近隣住民との協力体制を築いていかれることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立の作成、食品の発注などを行っている。職員は、水分摂取に心がけており、利用者には通常1500cc以上の水分量をすすめている。日頃の観察と気付きを大切に、水分や食事量が少ない利用者に対しては、その日の職員が相談し合ったり、看護師の専門的意見を取り入れ、別書式で管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2階は居室とくつろげる共同スペースがあり、1階は通所介護の利用者や併設事業所との交流スペースに分かれている。廊下や共同スペースに、ホームの連絡等の掲示はなく、施設的な雰囲気は全く見られず、生活主体の環境となっている。中庭があり、季節の花、鳥や昆虫など自然を感じることができ、自然な環境と緑地帯を通して風が入るため、季節感が味わえる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のレイアウトや家具の持ち込みは自由に行うことができ、利用者主体に自由に居心地良く過ごせるようになっている。利用者の意向も職員や家族が相談しながら反映されている。		